

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：基盤研究 (B)
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18320107
 研究課題名 (和文) 伊藤博文と韓国統治—日本の近代化経験と帝国の形成—
 研究課題名 (英文) Ito Hirobumi and governance of Korea
 —Japan's modernization and formation of empire
 研究代表者
 伊藤 之雄 (ITO YUKIO)
 京都大学・大学院法学研究科・教授
 研究者番号：00203183

研究成果の概要：本研究では、日露戦争から韓国併合に至る時期に伊藤博文の下で進められた韓国統治について、日本の近代化経験がどのように帝国の形成につながったのかという視点から共同研究を行った。研究成果の一部は、西園寺公望や山県有朋の評伝やその他の学術論文に発表した他、2008年10月開催の国際シンポジウムで、既に一般にも広く公開した。また、論文集『伊藤博文と韓国統治』を、2009年6月に公刊する予定である。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2007年度	5,900,000	1,770,000	7,670,000
2008年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
年度			
年度			
総計	14,800,000	4,440,000	19,240,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史、東洋史、政治学、公法学、基礎法学

1. 研究開始当初の背景

19世紀後半～20世紀前半にかけて、日本は非西洋諸国の中で先駆けて近代化を成し遂げた。そこで最も中心的役割を果たした政治指導者の一人が、明治政府の中枢に一貫して位置した伊藤博文であった。伊藤は、明治憲法の制定や運用、条約改正、日清戦争などで中心的な役割を果たし、そのバランスの取

れた政治指導は日本の研究では高く評価されている。晩年に韓国統監として推進した韓国併合についても、日本国内では比較的穏健派に位置し、国際協調に注意を払い、韓国への一定の配慮を持ちながら慎重に進めたと評価されることが多い。しかし韓国においてはそのような評価は稀で、伊藤が韓国の主体

性を奪い、侵略を進めていった側面が強調されている。伊藤をどのように評価するかは、日韓の歴史認識問題を考える上で最も主要な争点の一つであり、その評価の相違は、まさに日韓の歴史認識のギャップを象徴している感さもある。

それでは、伊藤に対して日韓で正反対に近い評価がなされているのはなぜだろうか。いかなる点でどのように評価が分かれているのだろうか。本研究は、このような疑問に答え、伊藤博文による韓国統治の実態を解明するため、一次史料に基づく実証的方法を重視し、韓国の研究者の協力を得ながら、共同研究を進めるものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上述した問題意識のもとで、日露戦争から韓国併合に至る時期に伊藤博文の下で進められた韓国統治について、日本の近代化経験がどのように帝国の形成につながったのかという視角から、実証的・学際的・国際的な共同研究を行うことで、日韓の相互理解を深め、歴史認識を共有するための基盤を作ることにある。

3. 研究の方法

本研究では、主に以下の3点の分析を重点的に進めた。(1) 日本の近代化経験が韓国統治に及ぼした影響、(2) 日本の統治に対する韓国側の反応、(3) 日露戦争以後の東アジア国際政治における韓国問題、という3点の検討を進めた。

本研究の特色は、上記の検討を、これまで十分に活用されていない一次史料に基づいて進めた点にある。具体的には、日本の外務省外交史料館、防衛庁防衛研究所図書館、国立公文書館、東京大学、京都大学などが所蔵する一次史料や公刊史料はもちろんこと、イ

ギリス外務省文書（イギリス国立公文書館所蔵）、ソウル大学の奎章閣、国家記録院などに散在し従来利用されていない韓国の未公刊史料を、調査・収集・分析した。

また、研究を進めるにあたっては、各地方に残されている一次史料を収集・分析することにも努めた。主な調査先は、以下の通りである。山口県立公文書館、萩市立博物館、伊藤公記念館、大磯町立図書館、大磯町立郷土資料館、旧大磯プリンスホテル。また、数度にわたって伊藤家に聞き取り調査を実施している。

本研究には、李盛煥氏（啓明大学教授）他4名の韓国の研究者の協力を得て、日韓双方の歴史学者・法学者・政治学者の参加を得た。日本史・朝鮮史・日英関係史・日米関係史、政治史・外交史・思想史・法制史など、多様な研究エリアとディシプリンを持つ、日韓双方の研究者が加わることによって、共同研究の実を挙げることができた。

4. 研究成果

(1) 本研究の成果の一部は、既にいくつかの学術論文や著書の形で公表している。学術論文は、従来研究蓄積の浅かった韓国併合前の日本の対韓政策などについて明らかにしたもので、本研究による広汎な史料収集や多分野の研究者との議論によって可能になったものである。また、著書としては、研究代表者が西園寺公望、山県有朋の評伝を執筆し、伊藤博文や日本の対韓政策に関わる部分については、本研究による最新の成果が反映されている。

(2) 2008年10月に、国立京都国際会議場において国際シンポジウム「伊藤博文と韓国統治」を開催した。本研究の成果を、一般にも分かりやすい形で発表したもので、約500

名の参加を得、当時の様子については、『朝日新聞』紙上で報道された。シンポジウムのプログラムは、下記の通りである。

■日韓シンポジウム「伊藤博文と韓国統治」

(2008年10月19日、国立京都国際会館)

- ・開会あいさつ—伊藤博文没後100年を前にして：伊藤之雄（京都大学教授）
- ・シンポジウム司会：伊藤之雄・李盛煥

1. 伊藤博文の対韓政策—韓国統治の展開：方光錫（延世大学教授）

コメンテーター：崔在穆（嶺南大学教授）、松田利彦（国際日本文化研究センター准教授）

2. 伊藤博文における知と政治—韓国統治をめぐる思想：瀧井一博（国際日本文化研究センター准教授）

コメンテーター：川田稔（名古屋大学教授）、李宗燦（亜州大学教授）

3. 統監府の司法改革—韓国統治と法の支配：文竣映（釜山大学教授）

コメンテーター：大石眞（京都大学教授）伊藤孝夫（京都大学教授）

4. イギリス・アメリカのみた韓国併合—国際関係と「韓国統治」：奈良岡聰智（京都大学准教授）

コメンテーター：浅野豊美（中京大学教授）西田敏宏（人間環境大学准教授）

5. 植民地朝鮮における記憶

- ・伊藤博文の記憶—京城の博文寺を中心に：水野直樹（京都大学教授）
- ・安重根についての朝鮮人社会の記憶 辛珠柏（ソウル大学責任研究員）

・閉会あいさつ—植民地支配の記憶とあらたな日韓関係：李盛煥（啓明大学教授）

(3) 本研究の成果を包括的にまとめた論文集として、伊藤之雄・李盛煥編著『伊藤博文と韓国統治』（ミネルヴァ書房）を2009年6月に公刊する予定である。同書の韓国語版も、図書出版先人から同時に公刊される予定である。

(4) 研究代表者の伊藤は、本研究の成果を活かして、伊藤博文の評伝の執筆を進めており、こちらも近く出版予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

- ① 奈良岡聰智「大磯から見た近代日本政治」『創文』502号、1-5頁、2007年
- ② 伊藤之雄「伊藤博文の韓国統治と韓国併合—ハーグ密使事件以降—」『法学論叢』164巻1~6号、2009年

〔図書〕(計 3件)

- ① 伊藤之雄『元老西園寺公望 古希からの挑戦』文春新書、1-358頁、2007年
- ② 伊藤之雄『山県有朋 愚直な権力者の生涯』文春新書、1-485頁、2009年
- ③ 伊藤之雄・李盛煥編著『伊藤博文と韓国統治』ミネルヴァ書房、1-354頁、2009年6月公刊予定

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 之雄 (ITO YUKIO)

京都大学・大学院法学研究科・教授
研究者番号：00203183

(2) 研究分担者

・川田 稔 (KAWADA MINORU)

名古屋大学・大学院環境学研究科・教授
研究者番号：50140017

・水野 直樹 (MIZUNO NAOKI)

京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号：40181903

・大石 眞 (OISHI MAKOTO)

京都大学・公共政策連携研究部・教授
研究者番号：80138148

・伊藤 孝夫 (ITO TAKAO)

京都大学・大学院法学研究科・教授
研究者番号：50213046

・浅野 豊美 (ASANO TOYOMI)

中京大学・国際教養学部・教授
研究者番号：60308244

・松田 利彦 (MATSUDA TOSHIHIKO)

国際日本文化研究センター・研究部・准教授
研究者番号：50252408

- ・ 瀧井 一博 (TAKII KAZUHIRO)
国際日本文化研究センター・研究部・准教授
研究者番号：80273514
- ・ 西田 敏宏 (NISHIDA TOSHIHIRO)
人間環境大学・人間環境学部・准教授
研究者番号：90362566
- ・ 奈良岡 聰智 (NARAOKA SOCHI)
京都大学・大学院法学研究科・准教授
研究者番号：90378505

(3) 連携研究者
なし